



## 森の里ふぉーらむ

### 【設立年・会員数】

平成11年より活動を開始。組織化したのは平成14年5月。

当初は四丁目の会長、副会長、経験者8名でスタート。現在は丁目を問わず会員数20名。

### 【設立目的】

1. 経験を生かし自治会活動を支援すること。
2. 森の里が抱える現在及び将来の課題について、専門的に研究して対策を講じること。





## 地域がやる。それを形にしたいという思いがありました。

ふ

おーらむは私が平成九、十年と四丁目自治会長を、その前三年間副会長をやって感じた事の中で、その間班長やったり役員やったりする人たちも、一度そこを降りてしまうと、自治会に関心はあるけれど、自分はもう役がないからという事で地域の催しの手伝いに行ったり、なにかやることがありますか、等と積極的に働きかける人はほとんどいない訳です。それが普通かも知れないけど、そういうのを見て、せっかく一年であれ何年であれ、携わったにも関わらず、そこから役が無くなると無関心になっていってしまう。それは勿体ないと思った訳です。そこで、私が自治会長を降りたときに、役員経験者は意識が高く、いろいろな事に携わっていた人が多いので、役員経験者を集まって貰って、自治会は行事をこなしたり、あるいは連絡事項であったり、そういうもので終始していて、それ以外に専門的に物考えるという時間もなかなか無く大変だという思いを持っていました。そこで役員経験者の人達に、我々が自治会に対して何ができるかということで、平成十四年だと思いますが、森の里が抱えている問題は何かと話し合いました。交通問題・少子高齢・防犯・防災。この三つを大きなテーマにし、我々でこの事に対してどういう事ができるか、それを専門的に研究し、自治会と一体となって、あるいは地域と一体となってこの問題に取り組んでいく

事を目的に設立しました・・・

そ

して、一番最初に手掛けたのは、若い人がここに残ってもらうにはどうしたら良いかという問題で、ここから通って貰わなければならぬ。本厚木まで新宿から一時間位で着きますが、森の里はそこからバスの便が悪いと四〇分くらいかかってしまう。こんな状況だと、若い人はここから通勤しないだろう。若い人が出てしまえば、当然ここはいわゆる廃墟状態、老人のまぢになってしまふ、それで、なんとか、愛甲石田まで通勤者の足を確保できないかと検討した結果、三〇〇万円くらい掛かるけれどもマイクローバスを二台用意して、朝と夜の通勤時間帯にピストン輸送をしよう。しかし、そのお金を自分達で捻出することはできない。そこで、森の里自治連絡協議会に提案をしたんですね・・・

青

ナンバーであれば利益者負担で、利用者からいくらか貰えて、ある程度できるかも知れないけど、そのような何処かでもやっているような地域バスではなく、我々は無料運行する白ナンバーにこだわりました。なので、三〇〇万円のお金をどう捻出したら良いかというのを考えた時に、一番の理想は自治会費を上げてもらい、森の里全体で支えてもらいたい。自分は年を取って

バスで通勤なんて関係ないよ、という人も、このまちをどうしようか、このまちを良いまちにしようと思ってもらって、森の里を他所から見たらそんなことをやっているまちなのって。そう褒められたら誰だって嫌な気持ちはいらないでしょう。例えば会費を五〇円上げれば、一五〇万円ほど集まる。できれば一〇〇円、自治会費を一〇〇円上げてくださいと、ただ一〇〇円でも無駄なお金は出したくないというのは当たり前なので、そこを強い信念と情熱をもって話せば理解してもらえると

思い、森の里自治連絡協議会に提案した訳ですね。そのことに関してはいわゆる総論賛成、各論反対という話でした。それはそうですね、自治会長・副会長が各丁目に戻って、まず班長にそこを力強く解けるかということが、問題になりますよね。話聞いててなるほど思っています、それを説明して理解してもらうにはかなりの努力が必要だから、結局そこで前に進まなかったんだよね・・・

**そ**れは仕方ないと我々では話していたんですが、ある日四丁目の知り合いの方が、「私、三和に行くのに大変になっちゃって、帰りタクシーなんですよ。」という話を聞いたんです。その話を聞いて、こんな近い所でもタクシーを使う人がいるんだ。そういう状態になってしまったのか、尚更これを放っておけば大変になってしまふということ、通勤の交通問題はあったけれど、理解してもらえたが、将来実現するには、とりあえずできる所から走らせて、みんなの目にとまるようにやろうよ。ただ、はじめはお金の問題が

あったので、言い出しつpegが責任を持たなければいけないから、あの当時六人から七人くらいのメンバーで一人十万円くらいづつ出せば走らせられるんじゃないかと話していたんです。そんな矢先に、市の助成があるというのを聞いて、市に提案し、それで車がリースできることになった。そのことによって大きかったお金の問題がある程度解決した訳です。あとは運転とかはボランティアでやろうよ、無料でやろうよと。そうしてやったのが、ぐるつとのきっかけです・・・

## 正

直に言って我々の考え方は、ぐるつとを運営することが目的ではないんです。ぐるつ

とは、現実こういうものをやると実現できるんだなということを見てもらうための宣伝の一つだったんです。だから次のステップは、最終バスが夜の十一時を過ぎると終わってしまうので、その後の0時半過ぎまである愛甲石田に着く電車に乗って帰る人達を、これで拾おうということを考えています。しかし、最終目標は何といつてもバスの便が悪いのを解消しようということなので、それは我々の団体だけでなんとかできる問題ではないので、地域全体で、そして民間企業とも連携して、実現したい。その一つの宣伝がぐるつとなんです。今では認知されて、年を取った方の現実問題を解消するのに役立っていると思えます。我々は歳をとってきているが、一方で若い人も出てきているので、さらにぐるつとを充実したら良いと思います。そして地域がやっているということが大事で、そんな意識の高い所なら森の里

に住んでみたい、という人が増えてくれるんじゃないかな、そうすれば資産価値もあがるでしょう。そのための一〇〇円って惜しくないじゃないですか。その様に説明をすれば多くの人に理解を頂けると思っています。そんな想いでふぉーらむを作って、その結果がぐるつとでの成果です。







## 地域に役立つ。その充実感を味わってもらいたい。

リ タイヤし、今まで企業などで責任を持ってやってきた人、特に男性が地域に帰ってくると、忙しかった人程、偉かった人程、地域とは密着がなくて、家に閉じこもりになったり、奥さんにかかりきりになってしまったり、わがままを言ったりしがちになります。そうすると病気がちになったり、寿命も短くなったりしますよね。やっぱり、現役の時程ではなくても、地域に戻って来ても、自分の存在感がある、自分がいることで人が喜んでくれる、人に役立つという認識を持って生活の充実感を味わってほしい。今、集まっているんなことをやっていますが、それが大きな目的なんですよ。草刈りももちろん、ぐるっとの資金源を得ることも大事だけれども、男として少しは人の役に立っているとか、気持ちの高ぶりをかを、地元に戻ってきてもち続けてもらいたい。それが、健康であり長生きの秘訣だと。その受け皿としてもふおーらむはあるので、我々の活動は趣味の集まりとは少し違います。活動の結果として地域に役立つという、その充実感を享受していきたい。そういう組織ではあり続けたいと思っています・・・

若 い人の声も聞かせてほしい。組織に活性化が欲しいので、社会へ出ている現役の人たちの新しい色々な意見を聞いて取り入れていきたい

い。また、おやじのたまり場は人材の宝庫だと思うので、おやじのたまり場の方々の力も借りて、タッグを組んで、楽しく森の里を良くしていきたい。また、後継者の心配がある。リタイヤしたての六〇歳から六五歳くらいの人が継続的に入ってきてくれると嬉しい。もちろん現役の人も。出来る範囲の活動だけで良いので来てもらえるのが理想。



## ・シリーズ 森の「いま」と「みらい」①

### ③「森の里」について、今後、 こうはなってほしくないなあとと思うところは？

・街も放っておくと子供が少なくなってしまうし、空き家が増えてしまう。そんなまちにならないように、地域の人がかかりするということに警鐘を鳴らしていかなければならない。

### ①「森の里」について、 いいなと思う点や好きなところは？

・自然環境に恵まれ、目的意識の高い人、理解力のある人達が集まっていて人材が豊富である為、知識を共有し合うことができ、そこから連携が生まれる。  
・しがらみが無く、新しいことの提案を理解してくれる人達が多い。

### ④森の里が将来こうなったらいいなと思うところは？

・子供、若い人、お年寄りがバランス良くいて、それらが一体となって生活していけるのが理想。  
・リタイヤして地域に戻ってきた時に、いきいきと地域の為の活動を一緒にしていける環境があり、子供や若い世代の人達と一緒に楽しく暮らせるまち。  
・厚木市で一番の長寿のまち、生きがいを感じ、年をとっても健康でいられる、その為に体を動かす、それが地域でできるまち。  
・健康年齢が厚木市、しいては全国の中でも上位にあるということで有名になって欲しい。

### ②「森の里」について、イマイチだなあとと思うところ、 いやなところ、改善したいところは？

・見当違いかもしれないが、教育レベルが高いからか、子供が外で遊ばなくなり、わんぱくに育っていないのではと思う。  
・子供会の活動等、活動が疎遠になってきてしまっているように感じる。子供達の交流をもっと盛んにしたらよいと思う。  
・自然環境を守りたい余り、社会環境の変化への対応に臆病になりがちなどところ。

### 編集後記

ぐるっとが森の里を走っていることは知っていましたが、誰が乗っても良く、しかも無料で乗せてもらえるとは知りませんでした。老人や身体の不自由な方や重い荷物を持った方には玄関先まで荷物を運んでくれたり、優しく、丁寧で細やかな対応にも感動しました。そして何よりこんなにも熱く森の里の事を考えて活動されている方がいたことに希望も感じ、いろんな方との繋がりを深めていけば、森の里はこれからとても良いまちになっていくのだと心から感じた一日でした。

取材 四丁目 角田 寛子

